

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和3年9月29日（水）

対 象 第3学年2組 28名

指導者 小新 祐介

1 単元名

『地域の商店街に行ってみよう』

2 単元の目標

○地域の商店街に関わりながら主体的に問題を見出し、視点をもって調べることができる。

【知識及び技能】

○調べたことを協力してまとめたり、相手を決めて発信したりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○課題を見出し、解決に向けて自分が考えるよりよい方法で取り組むことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

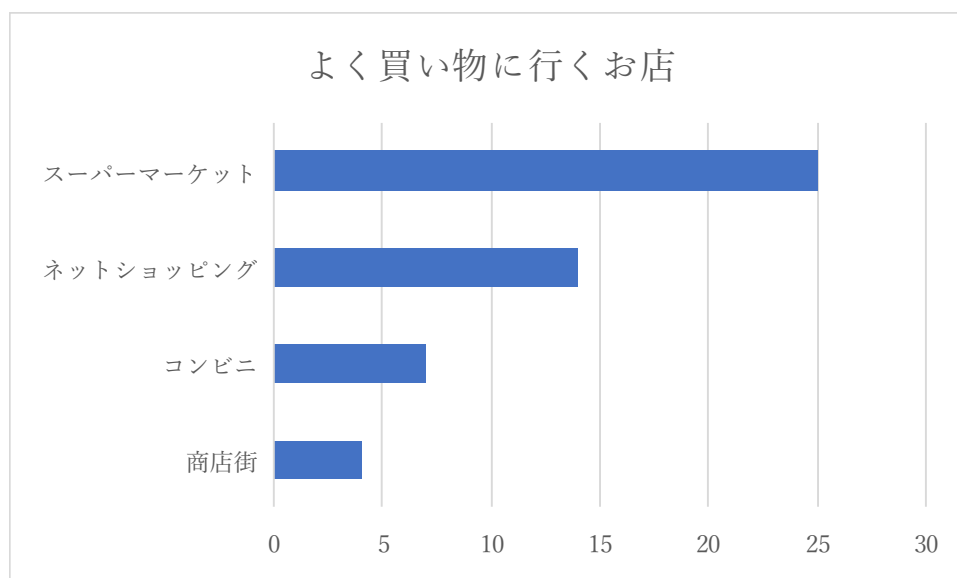
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">地域の商店街の成り立ちや地域における役割を理解するとともに、商店街に関わる人々の努力、思いに気付いている。地域の商店街について調べるために、課題に合った方法で調べている。これまでの学習をまとめ、ふりかえることを通して、地域の商店街の意義について理解している。	<ul style="list-style-type: none">地域の商店街について調べ、自分なりのテーマを設定している。自分が調べたいことと関連させながら、情報収集している。集めた情報を、伝える目的に合わせて整理している。地域の商店街について調べたことについて、要点をまとめて分かりやすく表現している。	<ul style="list-style-type: none">課題を見出し、解決に向けて自分が考えるよりよい方法で取り組もうとしている。地域の商店街のよさを発信するために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取組もうとしている。自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的にかかわろうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、社会科「お店ではたらく人」（6～7月実施）に関連させた単元である。

社会科の学習を進める中で、買い物の行き先について保護者にアンケートをとった。すると、多くの家庭が利用していたのは「スーパーマーケット」や「ネットショッピング」であるということが分かった。（下記グラフ参照）



※質問「どこでよく買い物をしていますか。」（7月実施、複数回答可とした）

今回設定した4つの選択肢の中で、一番回答が少なかったのが「商店街」である。商店街を利用しない理由としては、以下のようなものが挙げられていた。

・スーパーより遠いから。・いくつか回らなければならず、時間がかかるから。・行く機会がないから。・お店が空いている時間に行けないから。・現金しか使えないと思うから。・ほしい物があまり売っていないから。・家の近くにないから。

一方で、「質が良い品物を売っている」、「近所にあって便利」等、よさを挙げている家庭もあった。地域にある商店街は小売店の集合体でありながらも、地域の中でスーパーマーケットやネットショッピングにはない魅力や地域における役割があると考えられる。商店街について調べる中で、子供たちが自分たちと商店街との関わりに気付けるような単元展開としたい。

単元の後半には、商店街について調べたことを伝える活動を行う。対面での発表には多くのメリットがあるが、今回は「感染症対策のため」、「じっくりと文章を読み込めるようにするため」という2つの理由から対面の発表ではなく、Google ドライブを活用することで、情報の受け手が見たい時にいつでも閲覧できるような形式とする。

なお、地域の商店街として川島商店街を扱うが、他の商店街にも言及するなどし、理解に偏りが出ないように配慮する。

（2）児童の実態

日ごろ、子供たちどうしの会話の中で、駄菓子屋など商店街の話題がよく出てくる。教材研究のために事前取材をした際にもお店の方から「3年生というと、〇〇ちゃんだね。いつもおばあちゃんと一緒に来てくれてるんだよ。」などと、普段の子供たちと商店街との関わりが分かるエピソードを伺うことができた。社会科第1単元「中野区の様子」のまとめで川島商店街や南台商店街を調べた児童も数人いた。ただ、それらは一部の話であり、商店街との関わりがないまま過ごしている児童も少なくない。

本単元は社会科のお店の学習と関連している。3年生の社会科では、学校を中心とした地域や中野区について学習する。社会科の学習をより深めるという観点から、商店街について調べる中で、その背後にある地域社会についてもより具体的なイメージをもてるようにしていきたい。

5 研究主題との関連

(1) 主題に迫るための2つの手だて

研究主題に迫るために本単元における手だてや学習活動を以下に示す。

個別最適な学び

- ・学習前後で自分が作成したイメージマップを見比べ、自己の成長に気付く。
- ・調べるテーマを各自が選ぶ。

協働的な学び

- ・商店街の方々やお家の方との対話、授業内での話し合い活動を通して学ぶ。
(感染症対策を第一とし、できる範囲で行う。)
- ・グループで協働し、Google スライドを作成する。
- ・Google スライドを互いに見合っ、より良いものになるようにアドバイスをし合

一人一人がじっくりと考えを深めたうえで協働することにより、新しい考え方や気付きが生まれると考える。

(2) ICT 活用の経過

今年度5月にタブレットを使い始めてから、子供たちは授業内外で積極的にタブレットを使用してきた。具体的な活用実態について、以下の表にまとめた。

時期	ツール	内容
5月	ダンジョン&ドリルス Hour of code QRコード カメラ	漢字・計算の復習 プログラミングのゲーム 資料となるwebページの閲覧 植物・こん虫の撮影(理科) 不思議な写真の撮影(昼休み)
6月	メンチメーター Googleドキュメント Googleスライド Google Classroom Googleドライブ Google Jamboard Google スプレッドシート	アンケート集計(学活、道徳) お家の方へのお手紙作成 4コマまんの作成 学習で使用する資料の配布 みなかみ風景写真閲覧 付箋で語彙を増やす活動 SNS 東京ノート 初発の感想、話し合い活動(国語科)
7月	Google スプレッドシート	買い物調べクラス集計・グラフ作成(社会科)

	GarageBand Google スライド	合奏（昼休み） 選択式ゲームの作成
9 月	Google スライド コラボノート®EX	リンク機能の活用 話し合い活動

※継続的に取り組んでいるものもある。

はじめの頃は、カメラ機能の使用や web ページの閲覧が主だったが、やがてクラスルームを活用した課題の配布や共同編集を積極的に活用するようになった。クラスルーム上で課題を配布すると、資料の作成や提出が容易になり、教員にとっても児童にとってもメリットが大きい。共同編集機能を使えば、児童がこれまでの学習形態では得られなかった気付きを得たり、授業者が普段発言の少ない児童の考えを取り上げたりすることができる。それにより、児童一人一人のより主体的な授業参加が期待できる。

さらに、Google Classroom 上で配布した課題や資料は、そのまま「学びの履歴」になる。それらが蓄積されていくと、教員にとっては授業改善や児童の学習評価がしやすく、児童にとってはいつでも課題や資料を確認しやすい状況が生まれると考える。

本単元では、主に Google スライドを使用する。事前に学級活動や総合的な学習の時間等の時間を活用し、児童が楽しみながら技能を獲得できるような活動を行った。

（本単元の学習活動を行うために必要な ICT スキル）

- ・カメラで撮影する。 ・Google ドライブに保存する。
- ・Google ドライブに保存したファイルを貼り付ける。
- ・インターネット上の Web ページを閲覧する。
- ・Google ドキュメント上に文字入力をする。
- ・Google スライドで作品を作る。（リンク機能でスライド同士を関連付ける。）

6 単元の指導と評価の計画（全 16 時間）

		学習活動	○評価基準【観点】★ICT の活用
課題の設定	1	お家の方へのアンケートの結果を見て、考えられることを話し合う。	お家の方々の商店街利用の実態に気付いている。【態】
	2	川島商店街を知り、すでに知っていることをイメージマップにまとめる。	川島商店街について知っていることを書いています。【態】
	3	川島商店街の映像を見て、気付いたことや考えたことを書く。	川島商店街の様子やお店の方々の思いを理解している。【知・技】
	4	川島商店街がわたしたちの地域にとってどんな場所なのか話し合う。	
	5	川島商店街地図コンテストを行う。	川島商店街のよさを伝えるための方法を考えている。【態】

	6	「川島商店街にくわしくなろう」というめあてを持つ。	これまでの学習をふまえて自らの課題を設定している。 【思・判・表】
情報の収集	7	川島商店街について自分が調べたいことを書き出す。	これまでの学習をふまえて自らの課題を設定している。 【思・判・表】
	8	テーマごとにグループ編成をする。	協力して調べるための見通しをもっている。 【態】
	9 10	グループごとに調べる。(取材する)	川島商店街について、目的に合った方法で調べている。 【知・技】【思・判・表】
整理・分析	11	「スライドで川島商店街のよさを紹介する」というめあてをもち、伝えたいことをB5 1枚にまとめる。	伝える目的に合わせて、調べた内容を整理している。 【思・判・表】
まとめ・表現	12	地図を入れたスライドの体裁について話し合う。	協働して課題解決に取り組もうとしている。 【態】 ★Google スライド
	13 (本時) 14	紹介スライド内の担当部分をグループで協力してつくる。	調べたことについて、要点をまとめて分かりやすく表現している【思・判・表】 ★Google スライド ★Google Classroom
	15	成果物を共有ドライブに入れ、全校朝会でお知らせする準備をする。	川島商店街について伝えるための準備や工夫をしている。 【態】 ★Google スライド
ふりかえり	16	川島商店街イメージマップをつくり、以前作ったものと見比べ、学習の振り返りを行う。	地域の商店街の意義について理解をしている。 【知・技】 自分と商店街との関わり方について考えている。 【態】

7 本時の指導（13/16）

	学習活動	○評価【観点】 ※指導上の留意点 ★ICT の活用
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 「川島商店街のよさ」がつたわるスライドをつくろう！	
展開 25分	2 グループごとに Google スライドを作る。 <pre> graph TD A[話し合い、役割等を決める。 (修正する)] --> B[役割・目的に応じた作業をする。 (リーダー中心に声を掛け 合いながら)] B --> C[誰かが作業終了、もしくは 計画通りにいかない場面 に遭遇する。] </pre>	※各グループを回りながら、適宜、助言・入力補助をする。 ※Google スライドの一部を削除してしまった時に備えて、コピーファイルを準備しておく。 ★Google スライド
まとめ 15分	3 現時点での動作確認をする。 ・自分のタブレットで pdf ファイルを開き、思うように操作できるかを試す。 ・直すべきだと思った箇所について伝え合う。 4 ワークシートに振り返りを書く。 ・次の時間に行う作業を考えて書く。	※2の活動の終盤に pdf ファイルを作り、Google Classroom で配信する。 ※児童から出た改善点を Google ドキュメント上に入力しておき、授業後に Google Classroom で配信する。 ☆協力しながら、調べたことの要点をまとめ、より伝わりやすい表現を考えている。 【態】 ★Google Classroom

成果と課題、指導・講評 【R3 3年 研究授業】

1. 個別最適の学びにワークシート集を活用したが、それが有効であったか。

- タブレット端末導入元年の3年生にとって、初めから ICT 機器を操作するのではなく、児童が慣れている紙のワークシートを併用することにより、各自が単元の主たる学習活動により集中することができた。
- 今回作成した紙のワークシートの中には、役割分担などタブレット端末の方が適切なものもあった。

2. 同時編集機能を使ったことは、以下の2点について新たな視点を見出すのに有効であったか。

- 同時編集機能を活用することにより、商店街に関する知識や Google スライド作成上の情報共有がスムーズに行われて、児童同士で学び合いを行うことができた。
- 「リンク機能」を多用し、時間をかけすぎた。もっと内容について吟味できた方がよかった。

3. その他

- 事前に子ども達が学習計画の見通しをもっていたからこそ、教師の少ない指示で児童が本時の内容を理解し、グループで学び合いをスムーズに行うことができた。
- 机上に紙のワークシートとタブレット端末を同時に置く場合、端末の落下を防ぐための事前指導が必要だった。

指導・講評 NP0 みんなのコード 福田 晴一 先生

- ・ Google スライドの同時編集機能を活用したことにより、主体的・対話的な活動になっていた。
- ・ 今回はテーマごとにグループ分けを行ったが、グループについては、その単元の目的に合った構成を考えていくのがよい。
- ・ 共有機能には、欠席児童の参加や保護者・地域への発信など幅広い可能性がある。